

まちづくり懇談会内容

日 時：令和 5 年 11 月 27 日(月) 18：30～：20：23

場 所：カルチャープラザ「E k i」 多目的ホール

出席者：31 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認及び進め方の説明

3. 懇談

- (1) これからのまちづくりについて（資料①）
- (2) 各機関・団体からの質問・意見に対する質問
- (3) 自由懇談

教育長説明

4. その他

○ごみ分別内容の変更（資料②）

5. 閉会 町長挨拶

懇談会終了

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：栗山消費者協会で牛乳消費拡大を目的とした料理講習を栗高女子野球部のみんなとやりました。その際に牛乳を毎日飲んだことがない若者がいることを知ってびっくりしました。高校生の食事は外部の方から提供される弁当かコンビニ。学生には、食事の面のサポートが必要だと思っています。カロリーなどが管理された望ましい食事の提供はできないか。今後増えていく学生のために考慮してほしいと思います。

教育長：委託している業者の中に管理栄養士がいてカロリーなどを管理してもらっています。適正な部分は部活内でも行っています。

町民：以前商店街の駐車場内に止めてある車が傷つけられているとの苦情が入った。

防犯カメラがどの程度映るのか分からないが、商店街の中にももう少し防犯カメラをつけてもいいのではと思っています。ぜひ警察と協議して設置をお願いしたい。

環境政策課長：警察と情報交換をしながら設置を検討していきます。

町民：介護関連計画の第9次の資料を見るとあと10年～15年後には、高齢者が多くなり、若者がものすごく少なくなるデータが出ています。これから先は高齢者が社会に出て、働ける環境づくりが必要です。そのためには50歳～60歳位から健康を維持する運動をしていかなければならないと思っています。介護学校を希望する学生が少ないのはどうしてかと思ったときに、就職先が不安定なのではないか、就職したときの給料が見合っているのかなどの不安があると思った。介護学校を他の地域にはないものにするため、介護学生が日赤病院と連携し、実習することや患者との関わりを学生の中から体験することが必要だと思っている。実のある学生を送り出す介護学校にしてほしい。町内では、スポーツ大会がたくさん開催されているので、そこに介護学生をボランティアなどで派遣する等して、子どもたちを含めた介護をする体験をさせた方がいいと思う。あと中学生が少なくなっています。就学時検診を担当していた時は、120人くらいいたが、今年は50人くらいしかいなかった。全国的な問題ではあるが、小中学校の授業を一緒にして、この町でしかできない授業の提供をするような対策を取った方がいいと思います。

福祉課長：以前までは、賃金が安いというイメージがありましたが、現在はかなり改善されています。高齢者が社会で活躍してもらうために、介護予防の教室を設けるなど、町社会福祉協議会と連携しながら、社会参加の機会を提供しています。これからもボランティアや仕事などで活躍の場を増やしていきたいと思っています。

教育長：介護学生と町民との融合の関係ですが、町民・小中高との連携を強めています。介護学校のカリキュラムの関係もあるので、いただいた提案の取捨選択をしていかないといけないと思っています。また、地元の施設の努力もあり、来年度に向けて複数人の就職予定があります。現在、札幌の専門学校では定員数の3割ほどしか希望者がいなかったり、全道的に介護福祉施設の閉鎖などが相次いでいます。栗山町の介護福祉学校については5割を超えた人数を集めています。この数字に満足せず現在進めている包括連携協定を今後も全道に広めていきたいと思っています。小中学校の連携については、来年の年明けに学校教育の在り方に関わる意見を聞く会議を開催する予定です。教育委員会としては、町民の皆さんの意見を聞いて集約させて頂こうと思っています。

町民：今年は近年にない、暑い夏でした。栗山小学校にエアコンがついていてとても感心しました。町内の公共施設や小中高介護学校、幼稚園や保育所のエアコンの設置状況はどうなっているのか。

副町長：各学校には国の交付金を活用しながらエアコンを設置いたしました。温暖化の関係で人体に影響を及ぼす可能性が大きいということであるので、3～5年の計画で公共施設

に限ってですが、設置を進めていきたいと考えております。町民の方が集まるスペースや災害時の避難所などは状況に応じた中で行っていきます。

町民：ごみ分別が適正に行われていない場合、ごみの再分別をしているが、4月から燃やせるごみと生ごみが一緒だと再分別がどうしても難しい。なので、分別されていないごみでも役場の方で処理していただきたいと思っています。

環境政策課長：ごみステーションは各自治会・町内会で管理して頂いております。町内会の中でごみ分別が適切にできていない方がいらっしゃるということですが、町内会の関係者で手分けして作業をお願いするということはありませんので、環境政策課の方にご連絡いただければと思います。ですが、違反ごみの収集については赤いシールで啓発をしています。1ヵ月を目安に回収することとしています。夏場の生ごみの問題が発生した際には、電話して頂ければと思います。同様の状況が続くようであれば対象のステーションに張り紙などで周知していくことも可能です。

町民：ごみ分別の変更で他市町村と同じレベルになった。工業団地内にいる町外出身の方に移住関係のアンケートを取った所、一番抵抗のあったのがごみの分別です。それが解決してようやく移住しやすい町になるのかと感心しております。栗山に日赤があることは企業にとってもポイントが高いのでぜひ早く完成してほしいと思っています。最近、新聞やテレビで出ていますが、南幌町・長沼町で若者の移住が増えています。栗山町と若い世代の移住の増加やたくさん子どもが生まれる町になってほしいと思います。移住の対策などで他市町村との違いを考えたことがあるのか、今後検討してほしい。

環境政策課長：ごみ分別の関係ですが、燃やせるごみへの移行で分別が簡単になります。2月には新冊子を配布します。今後もご協力をお願いします。

町長：病院の関係ですが、この町に住みたいと思うきっかけとして総合病院は一つの核になると思います。また、安心感や子どもを育てる上での基本となると思っていますので、日赤病院を地域医療・地域包括ケアの核として位置付けて、病院を基本に介護や地域、学校などと結び付けていきたい。若者定住対策の関係ですが、色んな町の特質があるので他の市町村と一緒に施策で移住者が増えるのかということもあります。ですが、ご意見の通り全国には効果的な移住定住対策を行っているところがありますので、視野を広げて一手を打っていききたいと思います。

町民：最近、企業が山林に興味を持っている傾向があります。その中で秋にはクレイ射撃場で企業の従業員や家族などが対象に苗木を植える作業が大変好評だったとのこと。小さいお子さんが木に触れる機会を今後拡大していただければと思っています。先日、工業団地の中で空き家が燃えたということですが、今後工業団地の中で防災対策を町ではどう考えているのか。

産業振興課長：山林の関係ですが、近年企業による森林整備が進んでおり、企業の社会貢献や従業員のコミュニケーションの場として森林整備に関わっていただける企業が増えていきます。本年栗山町では、9月に道内外4社と森林整備に関わる協定を結びました。町有林4haを企業の寄付により整備して頂けることになりました。森林組合や道庁のご協力に進めてきたところです。来年度以降も広めていく予定です。また、木に親しんでいただく取り組みとして産業振興課では薪割りを実施しています。教育委員会の方でも木育のイベントなどを行っています。今後も関係者の皆さまと協議しながら進めていきたいと思っています。

町長：火事の関係ですが、工業団地の空き家から出火したということで町民の方にご心配をおかけしました。そのような中で消防団の皆様が12時間にわたって消火活動を行っていただきました。国道の水利を使用したため通行止めをすることになりました。工業団地内の水利も合わせて6本〜7本くらい使用しました。火事のあと関係部署で対策チームを作り、再度注意喚起や水利の検証を行っています。町民の皆さんの安全のために防火対策に努めていきたいと思っています。